

水道局だより

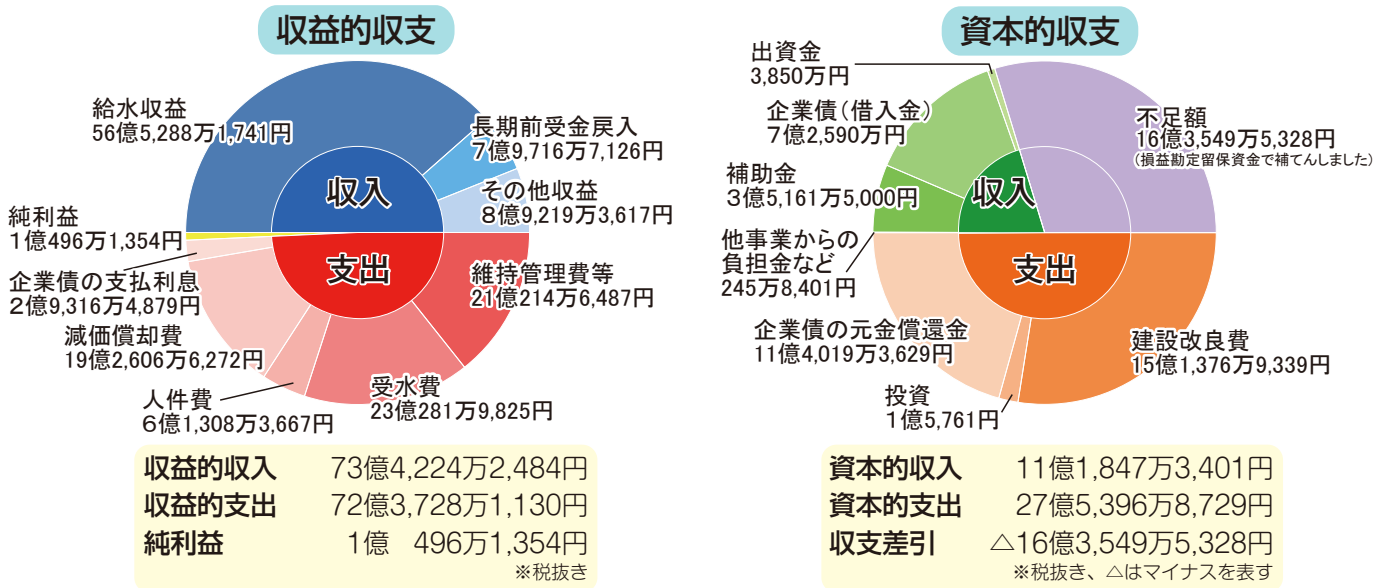
私たちの暮らしの中の水道 vol.6

令和元年11月1日発行
水道局

☎237-5811 FAX 237-5819

身近にある水道について知っていただくために、水道事業の現状・課題・経営状況をシリーズでお伝えしています。今回は、平成30年度決算状況を見ていきます。

平成30年度決算をみましょう！



- 収益的収支(グラフ左)
その年度の水道水の提供に必要な費用と、収入(主に水道料金)
- 資本的収支(グラフ右)
水道を将来にわたって維持するために必要な施設の整備や拡充などに係る費用と、それを行うための財源となる収入(補助金や借入金)

給水人口 27万6,961人
給水戸数 13万4,754戸
年間総配水量 4,035万4,893m³
1日平均配水量 11万561m³
1日最大配水量 12万2,072m³
(平成31年3月31日時点)

上のグラフからたくさんのお金が使われていることが分かるね！でも、経営が厳しくなると以前から聞いているけど、収益的収支(グラフ左)では利益が出ているよ。

平成30年度は、1億円の利益が出ているけど、過去にもらった補助金などを毎年少しずつ収益化している、実際の現金収入でない長期前受金戻入の8億円が含まれているから、利益が出ている訳ではないんだよ。

資本的収支(グラフ右)では16億円も不足しているけど、何から支払われているの？

将来、施設を新しくするために備えた貯金が53億円あって、そこから支払ったんだよ。でも、今年は収益的収支の減価償却費や長期前受金戻入などの会計上の処理を行って、15億円は戻すことができたんだよ。下の計算式を見てみて！

平成30年度は貯金が1億円減ったんだね。

そうだね。丈夫な水道を保ち続けるために、水道管や浄水場などの更新や耐震化は、今まで以上に力を入れていくことが重要だけど、その分貯金は減っていくことになるんだ。

水道局の貯金の動き

これまでの貯金 53億円 - 平成30年度の不足 16億円 + 平成30年度の貯金 15億円 = 貯金残高 52億円

平成30年度に減った貯金 1億円

水道事業の運営費用は、皆さんからの水道料金で賄っています！

